

滋賀大学経済学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部後援会 発行責任者／戸田 茂
URL: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=31>

目次	
大学改革・学部改革にのぞむにあたって 1	ゼミナール紹介 5
学生活動 3	資格取得等報奨制度について 7
	報奨金給付者の声 8

大学改革・学部改革にのぞむにあたって

経済学部長 小倉明浩



後援会会員の皆様には、常日頃より本学の運営に対し多大なご尽力・ご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

この『後援会だより』にこのように執筆のページをいただいていることは、ご支援をいただいている後援会会員の皆様に大学、経済学部の現況等をお知らせする機会として有り難いものであると考えております。今号では、大学改革の現状等を中心に、みなさまに大学の状況をご説明させていただきたいと思っております。

目下、国は国立大学法人に対し、その使命（ミッション）の明確化とそれを達成するための機能強化のための改革の遂行を要請しています。またその際に、人文社会系や教育系学部の見直しを進めることも求めています。このような状況の中で、経済学部と教育学部という2学部で

構成される滋賀大学は、社会の要請を踏まえた改革を進めていくべく取り組んでいるところです。この改革自体は、現在学生諸君に直接かわるものではありませんが、滋賀大学が将来も社会から良い評価を受け続ける存在であることは（大学のブランド力を維持高めていくことは）、現在の学生の皆さんの将来においてもプラスになるものです。

既に一部報道もされていますが、大学としては、理系の新しい学部（データサイエンス学部）を平成29年4月に創設し、グローバル化する経済や地域社会に貢献しうる文理融合型の教育研究を遂行する機関として機能を強化していく戦略を定め、その実現に向けて準備を進めています。そこでは、経済学部の学生定員や教員の新学部への移行が計画されており、これまで拡大の一途をたどってきた経済学部が、はじめて規模の縮小を計画することとなります。しかし、このことは経済学部の後退を示すものではありません。

みなさまご存知のことかとは思いますが、データサイエンス分野は統計学や情報学が融合する分野で、その分野での力は、ビジネスや地域社会という、まさに経済学部が教育・研究を展開し、人材を供給してきた領域において求められているものです。

また、経済学部自体も、文理融合型の教育、グローバル化する社会経

済のニーズに対応した教育、地域社会への貢献を重視した教育、を三つの柱として教育課程の改編を行っていきます。

文理融合型の教育という点では、新学部との間の学部を超えた「副専攻制」の導入を構想しています。経済学部で経営学やファイナンス、経済政策等を学びながら、新学部でデータサイエンスの基礎部分を並行して学び、データ処理、データ読解力を備え、それを踏まえた経済経営分野の問題解決力に強みを持つ人材を育成するためのプログラムです（もし可能であれば現在在籍している学生にも提供することを目指したいと思います。）。

グローバル化する社会経済のニーズに対応した教育では、現在実施している「グローバル人材育成コース」を拡充していくことを構想しています。またそのコースに所属しない学生であっても希望すれば多様な海外体験に参加できるよう、海外留学・短期研修プログラムの拡充を進めます。また留学生の受け入れも促進し、異文化交流体験が可能なキャンパス環境づくりを行っていく計画です。経済学分野での専門性にプラスして海外体験や異文化交流の体験を有していることは、就職活動でも高く評価される要因でもあります。（学生の国際体験活動については、経済学部HPの「滋賀大経済最前線」の

ページや「国際交流&グローバル人材育成」のページをご覧ください。）

地域社会への貢献を重視した教育という点では、地域をフィールドとした実践的な課題解決型（PBL型）授業プログラムの充実に取組みます。既に「就業力育成」の取組みとして様々な地域課題解決をテーマにした授業を実施しています。（取組内容については、経済学部HPの「就業力育成支援室・産業界ニーズ対応プロジェクト」のページをご参照ください。）これらの取組みを核として多くの学生が参加できるプログラムへと発展させていくことを計画しています。

以上のように、新しい学部を創設し、経済学部も改革を進めることを通じて、新学部と経済学部との連携によって、商品開発・マーケティング等の経営学分野、ファイナンス分野、政策立案分野等の経済学部の専門領域における力と、データサイエンス分野の専門領域における力を併せ持つ人材を育成するという方向で、教育機能の強化を図ることは社会の要請に依えうる社会科学系学部の改革となります。また研究面での連携にも大いに期待ができると思います。

この方向での改革が順調に進み実績を挙げていくことができれば、日本においてユニークな機能を有する大学として評価と地位を高めていく

データサイエンス学部の創設に伴う経済学部の改組(予定)

ことが出来るものと確信しているところですが、どうぞ今後ともご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

データサイエンス学部の創設—それに伴う経済学部の改組



データサイエンスに焦点を合わせた日本初の学部が、ここ彦根に誕生します。（平成29年度設置に向け申請予定。）経済学部の情報管理学科を中心に、全学的に学生定員と教員を移しかえ、新学部を創設します。これに伴い、経済学部もリニューアルします。従来の理念やミッションを踏襲しつつ、より特色のある教育プログラムを提供する学部生まれ変わります。

データサイエンス学部

私たちの生活には、様々な分野で蓄積されたビッグデータが利用され始めています！
通販サイトの「この商品を買った人は…」、SNSの『知り合いかも』、コンビニやスーパーの商品補充や陳列場所の決め方、個人ごとの特徴にあったオーダーメイドの治療や薬、生徒ごとの個性に応じた効果的な学習方法の提案、ゲリラ豪雨の予測と防災計画、……

●学びのテーマ：《21世紀の最新の科学=データサイエンス》

情報通信技術の発展により蓄積されたビッグデータを加工・整理・解析し、データに秘められた社会変革や幸福のヒントを「見える化」して、新たな価値を生み出すための、データ中心科学。例えば、統計分析、情報科学、それらが融合する新たな領域として、データマイニング、機械学習、人工知能、可視化技術などを学ぶ。

●学びの特色：《問題解決力を重視した文理融合プログラム》

学問の方法は理系的、でも実践のフィールドはソーシャル。1年次から官公庁、企業、研究機関と連携した実習で、現場の発想や課題解決を体感。3～4年次には経済社会のフィールドでデータを使った課題解決にチャレンジ。演習のデータ・フィールドは、マーケティング、商品企画、健康・医療、教育、ファイナンス、会計、環境、観光、交通、歴史文化など。

●卒業後の進路：《社会的要請の高いデータサイエンティスト》

- ・ 企業のデータ分析部門やIT部門、財務経理、生産管理、商品開発、経営戦略などの各部門
- ・ シンクタンク・経営コンサルタントのデータサイエンティスト
- ・ 官公庁・地方自治体
- ・ 大学院進学（データサイエンス、他の諸分野）

経済学部—リニューアルの方針

- 伸びしろのある高度専門職業人の養成
- ビジネススクール型+総合社会科学型の教育
- 5系列の学科・コースに再編
- 更なる付加価値を付けるための副専攻プログラム
 - ・ データサイエンス
 - ・ グローバル人材
- 徹底したリベラルアーツ教育

●想定される入学者

数学もⅡ/Bまで含めて、5教科7科目をバランスよく学習してきた「ふつうの経済学部志願者」はもちろん、さらに「理工学系の志願者」も期待される

学生活動

第53回近畿地区国立大学体育大会の成績

卓球(女子)・剣道(男子)・軟式野球が見事、優勝!

平成27年5月3日～8月29日の間、彦根市民体育館(バスケット会場)等で開催された第53回近畿地区国立大学体育大会において、本学卓球(女子)が4大会連続優勝、剣道(男子)が24大会振りの優勝、軟式野球が5大会振りに優勝しました。本体育大会は、近畿地区の11国立大学において、課外体育の健全な発展と大学相互間の親睦に資することを目的に毎年開催されており、17種目を実施しています。本学は、男子が16種目、女子が12種目に出場し、猛暑の中で各種目において熱戦が繰り広げられ、多くの種目で好成績を収めることができ、日頃の練習の成果を発揮することができました。今後、各競技の更なる活躍を期待します。競技種目別の結果は、次のとおりです。

第53回近畿地区国立大学体育大会競技種目別成績

No.	種 目 名	男女別	優 勝	準優勝	第3位	第4位
1	陸 上 競 技	男	京都教育大学	大阪大学	大阪教育大学	京都大学
		女	京都教育大学	神戸大学	大阪教育大学	京都大学
2	水 泳	男	大阪教育大学	京都大学	神戸大学	和歌山大学
		女	大阪教育大学	大阪大学	神戸大学	滋賀大学
3	野 球	男	神戸大学	和歌山大学	大阪大学	奈良教育大学
4	軟 式 野 球	男	滋賀大学	神戸大学	大阪大学	京都教育大学
5	テ ニ ス	男	神戸大学	滋賀大学	京都大学	大阪教育大学
		女	大阪教育大学	大阪大学	神戸大学	京都大学
6	ソ フ ト テ ニ ス	男	大阪教育大学	神戸大学	大阪大学	和歌山大学
		女	神戸大学	滋賀大学	大阪大学	和歌山大学
7	バスケットボール	男	大阪教育大学	大阪大学	京都大学	和歌山大学
		女	京都教育大学	大阪教育大学	京都大学	奈良女子大学
8	バ レ ー ボ ー ル	男	大阪大学	滋賀大学	京都教育大学	奈良教育大学
		女	京都教育大学	奈良女子大学	滋賀大学	和歌山大学
9	サ ッ カ ー	男	大阪教育大学	神戸大学	京都大学	京都教育大学
		女	大阪教育大学	京都教育大学	和歌山大学	兵庫教育大学
10	ラ グ ビ ー	男	大阪教育大学	神戸大学	京都大学	和歌山大学
11	卓 球	男	神戸大学	京都大学	大阪大学	和歌山大学
		女	滋賀大学	奈良教育大学	奈良女子大学	神戸大学
12	バ ド ミ ン ト ン	男	大阪大学	京都大学	大阪教育大学	神戸大学
		女	奈良女子大学	大阪大学	神戸大学	兵庫教育大学
13	柔 道	男	大阪教育大学	京都大学	和歌山大学	滋賀大学
14	剣 道	男	滋賀大学	京都大学	和歌山大学	大阪教育大学
		女	大阪教育大学	奈良女子大学	京都教育大学	神戸大学
15	体 操 競 技	男	実施規定参加大学数に満たない為オープン競技として実施			
		女	大阪大学	奈良女子大学	京都大学	
16	ハ ン ド ボ ー ル	男	京都大学	神戸大学	大阪大学	滋賀大学
		女	大阪教育大学	京都教育大学	滋賀大学	奈良教育大学
17	弓 道	男	京都大学	京都教育大学	奈良教育大学	滋賀大学
		女	和歌山大学	奈良教育大学	京都工芸繊維大学	京都教育大学



4大会連続優勝の卓球部女子

平成27年度七夕祭り 「爽涼」～日本の夏自然の夏心の安らぎ繋がる～」

7月3日(金)、大学会館前広場周辺において生協学生委員会(IE)が中心となり、七夕祭りを開催しました。今年のコンセプトは、「『爽涼』～日本の夏 自然の夏心の安らぎ繋がる～」とし、地域の方々の協力を得て、様々な企画が催されました。

昨年、一昨年と雨に見舞われた七夕祭りでしたが、今年は天候に恵まれ、昨年よりも多い500名以上の方々にご来場いただき、地域の皆様並びに学生・教職員が共に楽しいひと時を共有できた夏の夜になりました。



彦根古城太鼓

企画は次のとおり
《全体企画》

- ・ペットボトルキャップアート
- ・七夕らしさをモチーフにペットボトルキャップと絵で1つの作品を作り上げます。
- ・ペットボトル風鈴

地域の幼稚園にも協力していたいた風鈴で今年のテーマである「爽涼」を演出します。

《ステージ企画》

- ・「彦根古城太鼓」による和太鼓演舞
- ・「よさこいサークル柎」による



「よさこいサークル柎」と一緒に演舞

《参加型企画》

- ・水鉄砲的当てクイズ
 - ・スタンプラリー
- 会場のどこかにいる織姫や彦星を見つけたら、出店で買い物をしてスタンプを集めます。
- ・抽選会

弓道地域交流会を開催しました

7月19日(日)、経済学部弓道場において弓道地域交流会を開催しました。

本交流会は、地域の住民の方々とスポーツを通して交流を深めることを目的に、また、地域の方の要望もあり、平成26年度に新設された弓道場で初めて実施されました。

当日は、地域の住民の方々に弓道部員による模範試射を見ていただき、袴の着付け・試射の体験等をしていただきました。

弓道を通じ地域間・世代間の交流を行うことができ、互いに学びあうことができた有意義な交流会となりました。



弓を引っ張る緊張の一瞬

- ・弓道地域交流の内容は次のとおり
- ・現役部員による演武
- ・袴の着付け体験
- ・弓道体験



試射の様子



みんなでハイポーズ

ゼミナール紹介

伊藤ゼミナール

☆ゼミナール概要

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、「演習Ⅰ～Ⅳ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

「ゼミ」では、各教員がクラスを受け持ち、2年間、同一のクラスで同一の教員が、担当の専門分野の学問的内容について受講生の学習、研究を指導することになります。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

ます。

ゼミの特徴

OBの皆様にとつて、ゼミは大学生活の大きな思い出の一つとなっている方が多いのではないかと拝察します。それは私たちにとつても同じことで、教員もゼミには特別な想い入れを持つものです。日本の大学教育制度が批判されてもしかたのない点も多いのですが、日本のゼミ制度は海外の大学にはない優れた仕組みでもあると考えています。

私のゼミの特徴を表現するキーワードとしては、「課外活動」、「グループ研究」、「切磋琢磨」を掲げています。一方で、ゼミ生募集の説明会などでは、「ゼミ以外の時間を自分の自由に使いたい人」、「個人で勉強をしたい人」、「面倒くさい雑事を避けたい人」などは、私のゼミには入らない方がよいことを強調しています。

課外活動

名古屋市立大学経済学部・河合ゼミとの対抗ゼミで「勝ちこと」を目的に、正規の課外のグループ研究をゼミ運営の中心に据えています。その具体的な運営は次の通りです。

河合ゼミとの間で共通テーマを設定し、そのテーマを研究課題とし

て、ゼミ内に3〜5名程度のグループを複数結成し、課外で自主的な調査研究を進めることとしています。年末に開催される対抗ゼミの報告会では、経営者、経営管理者、経営コンサルタントなどの大学外部の方をゲスト審査員としてお招きし、その方々に優勝グループを決めていただいています。

対抗ゼミの本番では、毎年様々なドラマも生まれます。時にそれは、うれし涙や悔し涙にせよ、学生諸氏の号泣する姿を目にできる稀有な機会でもあります。

なお、ゲスト審査員招聘にかかる交通費などの経費については、陵水会からの助成を何度か頂戴しております。それにつきましては、この機会をかりて、皆様にお礼を申しあげます。

ゼミの目的

課外でのグループ研究を重視するのには、いくつかの理由があります。第一に、グループで作業を進めるためには、自分の考えを説明し、相手の意見に反論するなど、思考過程を言葉にする必要があります。そのことが論理の展開力や説得力を高める機会となります。第二に、他人と習慣的に対話することに慣れることも重要です。ひいては、そのことが協働の精神を培う一助となることも期待しています。第三に、グループでの対話や作業における他人との比較で、自分の長所や短所を自覚するこ

とです。たとえば、それは、「自分は論理を展開するのは苦手だが、発想を転換するようなアイデアを提示するのは上手だ」とか、「発想の豊かさではA君に適わないが、議論を整理するのは意外に得意だ」といったような気づきです。その気づきを活かして、自己評価を高めてもらうことも狙いです。さらに、ゼミでは「勝ちこと」を強調しながらも、競い合うことを単なる「勝ち負け」と捉えるのではなく、自らやグループの卓越性を追求する「切磋琢磨」の機会と認識することの意義を繰り返してメッセージとして伝えていきます。

ゼミの風景

写真の一枚は、本年度9月末の土曜日に開催した中間

通常のゼミ風景→



ゼミOB参加による中間報告会

報告会です。そこには5名のゼミの卒業生も講師として参加してくれています(メーカー、金融、公務員などの多様な職種卒業生です)。休日や費やして後輩を指導しようとする姿勢には感謝の念に堪えません(鳥取県からこのためだけに来てくれたOBもいます)。世代を超えたゼミ生の繋がりは、ゼミに関わる人々の最高の共有財産です。また一枚の写真は、10月に撮影した通常時のゼミの風景です。こちらでも4回生が3回生のプレゼンに批判、アドバイスをする形式でゼミを進めています。年の離れた教員の意見よりも、先輩の意見の方が心に響くことが多いようです。

大浦ゼミナール

ゼミの概要

本ゼミでは、現在3回生15名、4回生14名が履修しており、管理会計領域のさまざまな視点から時事的な経営現象の分析を行い、討論していきます。一般に「会計」というと細かな仕訳や計算、また専門用語や規則が多く堅苦しいといったイメージを持つ方が多いかもしれませんが、私のゼミでは簿記や仕訳、会計規則といった内容はほとんど扱いません。ゼミでは、管理会計学の基礎的な概念、あるいは分析フレームワーク

や思考法を幅広く学習するとともに、実際の経営現象にも目をやることを特に重視しています。現代企業の管理会計実践が抱える問題について批判的に検討する力を養うことがゼミの目的の一つだからです。ただ、管理会計は企業内部管理のための会計なので、企業組織に属したくない学生にとっては、必ずしもイメージしやすい身近な学問ではないのも事実です。ですが、ゼミ生は毎週課される事前課題のリーダーング資料に目を通し、なんとか課題をこなしてがんばっています。

ゼミの活動

毎年4月になると新3回生のゼミが始まりますが、春学期のゼミでは、会計データに慣れる作業から始めます。まず滋賀大学の図書館および情報処理センターのパソコンから利用できる各種のデータベース、特に日経EDSの利用法を学びます。日経EDSを使えば、様々な企業の長期間にわたる公表財務諸表データや株価等のデータが入手できます。私が学生だった頃、こうしたデータは教員および院生が限定的に利用できるのみで、学部生にはなかなか手の届かないデータでした。

近年、特にIT環境が整備され、滋賀大学の学部生は自由にこのデータベースを使って企業の経営分析を行うことができるので、ゼミでは有り難く使わせてもらっています。また毎年、図書館のご協力のもとで、

日経メディアマーケティングからインストラクターを招いたソフトウェアの利用講習会を開催いただき、ゼミ生も積極的に参加しています。こうした効果もあって、5月の連休をあげた頃になると、ゼミ生のほぼ全員が会計データの扱いにも慣れてきます。

ゼミでの研究成果は、他大学との合同ゼミや実務家を招いた報告会で発表しています。合同ゼミは、年によって異なりますが、和歌山大や甲南大、群馬大などと実施しています。ゼミでの活動を通じて、企業で

群馬大との合同ゼミでの集合写真→



ゼミ生でのレクリエーション (BBQ)

実際に起きた事例や財務データに基づいて経営現象を分析できるようになってくると、ゼミ生の成長を一番実感できます。幸いなことにゼミで学習した会計の知識等が就職活動で役に立つこともしばしばです。

生涯付き合える仲間との出会い

ゼミでは、個人あるいはグループで情報の収集や分析、発表等をしてもらう機会を多く作っています。ゼミ生に能動的に動いてもらい、自分の意見をしっかりと述べられるようになることや、効果的なプレゼンテーションやコミュニケーション能力を涵養することもゼミで目指したい目標の1つです。ゼミ正規の時間だけでは全く足りないため、学生は自主的に空き時間を利用して、発表準備のための打ち合わせを行っています。こうした機会を経て学生同士の仲間意識が生まれているように思います。

ゼミでの勉強も重要ですが、常々思うことは、大学生活を通じて、生涯付き合える仲間と出会ってほしいということ。先日も祝日の授業日に、卒業生がふらりと研究室に訪れてくれました。どうやら卒業してからゼミ生同士で連絡を取り合っているようで、そういった話を聞き本当に嬉しく思いました。

資格取得等報奨制度について

「滋賀大学経済学部後援会資格取得等報奨制度」は、平成26年10月に創設され、日頃の学生諸君の勉学等を支援し、資質の向上を目的とするもので、サポート対象基準を満たすことによりその功績を称え報奨金給付するものであります。

第2回目（平成27年2月～5月）については、下表のとおり、11件に対して給付されました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

なお、制度の対象となる資格等や金額につきましては、今後運用を重ね、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまから是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

【お問い合わせ】

滋賀大学経済学部総務係

TEL. 0749-27-1030

平成27年度滋賀大学経済学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧
(平成27年2月～平成27年5月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額	給付件数	給付者氏名 (敬称略) ○数字は回生
資格・認定試験	税理士試験	「簿記論」、「財務諸表論」 いずれかに合格	80,000	2	・由良彰浩 (院前②) 他 1名
		「消費税法」合格	50,000	1	・岩屋 愛 (院前②)
	公認会計士試験	短答式試験合格	100,000		
	日商簿記検定試験	1級合格	50,000		
	証券アナリスト試験	第1次レベル試験合格	30,000		
		第2次レベル試験合格	40,000		
	データベーススペシャリスト試験	合格	50,000		
語学試験	TOEIC (公開テスト)	800点以上	50,000	6	・野村巧樹 (学部④) ・土川貴之 (学部③) ・井藤量太 (学部④) ・竹瀬将大 (学部③) 他 2名
留 学	本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏地域	40,000	1	1名
		その他の地域	80,000		
その他	全日本卓球選手権大会出場		50,000	1	・堀本直孝 (学部④)

- 注) ① 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。
 ② 「資格試験」については、同一基準での申請は、学部及び大学院在籍期間中を通じ、1回限りとする。
 ③ 「語学試験」については、同一言語での申請は、学部及び大学院在籍期間中を通じ、1回限りとする。また、試験言語を、母語とする者は申請できない。
 ④ 編入学試験又は帰国子女入試枠で学部に入学者及び外国人留学生が、語学試験で申請する場合は、事前に問い合わせることとする。
 ⑤ 後援会費を未納の場合は対象としない。
 ⑥ 報奨額については、経済学部後援会役員会の議を経て調整することができる。
 ⑦ 本ガイドラインの改廃は、経済学部後援会役員会の議を経て決定する。

報奨金給付者の声

☆ 資格取得等報奨制度により
今回給付となった資格・試験

『TOEICテスト』

『TOEIC (トイーック)』とは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。
可否でなくスコアで評価され、世界約150カ国で実施されています。

『税理士試験』

『税理士試験』は、税理士となるのに必要な学識及びその应用能力を有するかどうかを判定することを目的に行われます。
試験は、会計学に属する科目《簿記論及び財務諸表論》の2科目と税法に属する科目《所得税法、法人税法、相続税法、「消費税法」又は酒税法、国税徴収法、住民税又は事業税、固定資産税》のうち受験者の選択する3科目(所得税法又は法人税法のいずれか1科目は必ず選択しなければなりません。)について行われます。

『TOEICテスト 875点』

経済学部経済学科4回生

井藤 量太

中学生の頃から、苦手な科目といえば『英語』。そんな私が英語に力を入れたのは、学内屈指のグローバルゼミでの活動を通じて、「世界の最前線で通用する人間になりたい」という夢を抱いたことがきっかけでした。ビジネス英語の基本であるTOEICで高得点を取得することは、その夢への第一歩だと考え、3回生の春ごろからTOEICを受験するようにしました。

初めて受験したTOEICの結果を見て、私は目の前が真っ暗になりました。世界を舞台に働くなど、夢のまた夢のレベルです。「このままでは話にならない」、そう痛感した私はそれ以来、TOEIC対策に没頭するようになりました。



頭するようになりまし。ときには一日10時間以上机に向かい、夢すら英語で見ることがありましたが、大学3回生になるまでサボり続けた分

を取り戻すには、これでも十分ではありませんでした。

約一年間をかけて現在のスコアを取得するに至りましたが、まだまだ夢を実現できる語学レベルには程遠いと感じています。しかし、875点取得後、3か月間の語学留学と半年間の海外ビジネス・インターンシップに挑戦し、世界への道が拓け始めたと感じています。来春から、世界を舞台とする石油開発企業に勤務することが決まり、今後さらなる語学力の向上を目指したいと考えています。

後輩の皆さん。私が就職活動で出会った他大学の学生の語学レベルは、私の想像よりもはるかに高いものでした。海外経験はもはや珍しいことではなく、今後その傾向はさらに加速すると思います。TOEICは、実践的な英語力へのほんの小さな一歩でしかありませんが、まずはその第一歩を逃げずに踏み出してほしいと思います。

『税理士試験 「消費税法」合格』

経済学研究科修士課程2回生

岩屋 愛

私は滋賀大学大学院2回生の岩屋愛と申します。現在、利川税理士事務所所に勤めながら、税理士を目指し、勉学に励んでいます。平成26年度税理士試験において消費税法の科目に合格することができました。

消費税法に合格する上で苦労した

点は、理論問題の対策でした。私は元々暗記が苦手であったため、理論問題にとっても難しさを感じていました。そこで専門学校が出版している「理論サブノート」を常に持ち歩



き、通勤・通学時間等少しの時間を利用して少しずつ暗記し、理解を深め、理論問題の苦手意識を克服しました。

合格できた大きな理由は、同じく税理士を目指す友人と共に大学で勉強出来た事です。大学で友人と共に何度も何度も練習問題を解くことで、本番の試験に近い雰囲気での練習が十分にできました。また、家族や勤め先が資格取得について応援して下さり、資格勉強にかかる時間確保に協力していただいた事も大きな要因です。

周囲の方々に協力いただいでやつと成し遂げた科目合格です。常に感謝を忘れずにいたいと思います。税理士となった後には、大学院で得た知識を活かし、中小企業をはじめ多くの皆様に幅広いサポートをしたいと考えております。